

## 《和歌山大学発オンリー・ワン研究の創成を！》

和歌山大学長 小田 章

高等教育機関である大学の使命は大きくみて三つあります。一つは、教育力、二つは研究力、そして三つ目が社会への貢献力です。大学が「大学」たるためには、この三つの力が不可欠であり、これらが相俟ってはじめて質の高い高等教育機関としての存在価値があります。本学もこれらの三つの力を高めるために様々な策を講じています。

特に、研究力の向上については、我が国の教育研究費予算が年々減少していく中で所与の範囲で出来る限りの手当をし、大学として恥ずかしくない研究力の維持・向上を目指してきました。その策の一つとして研究にも競争をという趣旨から、本学は、平成 13 年に研究費配分に競争的資金の考え方を導入し、全教員の申請に応じて研究費を配分するという「大学特別経費」枠を制度化しました。質の高い研究成果を産出し、教育の高揚と社会発展の礎の提供を目指しました。この制度の導入は、本学教員の意識改革をもたらし、真の研究者魂の覚醒に繋がりました。

平成 16 年の国立大学の法人化に際し、予算の逼迫化から「大学特別経費」の存続が危ぶまれました。しかし、3 年間ではありましたが、徐々に定着し、その成果も出始めてきた制度を廃止するのは本学の研究力低下に繋がるのではないかという危惧の声が高まってきました。そこで、16 年以降は現行のように「オンリー・ワン創成プロジェクト経費」と名称を変え、新たなスタートを切りました。配分予算額が些少であるために、採択件数を絞り 2 年間の継続研究にすること、COE に繋がる研究であること、そして各領域でオンリーワン研究であること等を基本条件に一件数百万円の枠で研究費を配分することにしました。創設以来 4 年を経過し、研究成果も報告書『Only One を創る』に纏め公刊しています。既に 2 冊が刊行され、今回の第 3 冊目は、18 ～ 19 年の 2 年間の研究成果を纏めたものです。本制度開始以来、年々応募者も増え、制度として定着してきました。選考や成果評価等については、当初内部で評価していましたが、特に 17 ～ 18 年度の研究からはその成果について外部評価を導入しました。各研究とも概ね高い評価を得ましたが、外部評価制度は教員の緊張感とともに研究それ自体の社会的意義を高めることとなり、将来の本学の大きな財産になるであろうと期待しています。さらに、これらの研究成果を広く社会に還元し、我が国発展の一助に資することを念じています。《和歌山大学発オンリー・ワン研究の創成を！》を合い言葉に、全教員の情熱と奮闘を期待しています。

最後に、本プロジェクトの実施に関わってくれた教職員諸氏に大いなる敬意を表するとともに、更に大きな成果が産出されるように本制度の一層の充実を図っていく所存です。